

# ときめき人

Tokimeki bito



## 伝統の舞いを伝える女性神楽師

中田町・南加賀野

### 菅原 真由美さん

すがわら まゆみ  
1972年生まれ 血液型/B型

#### Profile

米山町出身。学習支援員として石越小学校に勤務。「自分のできるのは神楽を舞うこと」と、数少ない女性の舞い手として活動を続ける。



赤谷神楽(石越町)は市指定文化財に登録。南部神楽の系譜で、太鼓や鉦の音が舞い手のせりふと一体となり、見る人の心を熱くさせる。

菅原さんは赤谷神楽保存会に所属し、市内外のイベントに出演。演目「鞍馬山の牛若丸」では主役の牛若丸を演じている。神楽を始めたのは、1年前津島神社の祭事でみこしを担いだ時、視界に入ってきた赤谷神楽の荘厳な舞いに心を動かされたことがきっかけ。以前から神楽に興味を持っていたこともあり入会を申し出た。

目で見た動き、耳から入った音をひたすら反復して体に染み込ませるのが神楽の稽古。太鼓や鉦のリズムも一朝一夕には身に付かない。始めて数カ月、自宅はもちろん出掛けた先でも所作やせりふを反復した。「牛若丸は基本の所作に加え相手と刀を交える場面がある。抑揚をつけた動作も求められる基礎技術の集大成の演目」と工藤貞夫代

表。始めて半年、主役としての初舞台を踏んだ。緊張で身のこなしが硬くなり、ただ舞うことが精一杯。頭の中が真っ白になり肝心な場面でせりふが出ない。舞台が終わっても満足感はなく、後悔だけが残った。その悔しさを糧に練習を重ね、今では「練習がストレス発散」と神楽が楽しみに。「神楽は伝統芸能であり神事。緊張感ある神聖な舞台で舞うことで普段感じられない凛とした気持ちになる。昔から伝わってきたものや行いには、それぞれ意味がある」と伝統への思いを話す。

「若い人たちが自分の舞いを見て、神楽をやってみたいと感じてくれたらうれしい」。地域に伝わる伝統を守るため、次代につなぐ橋渡しの舞いは続く。

## 編集後記

▼交差点で停止中、車のステレオから懐かしい音楽が。周波数は76.7MHz。ふと対向車に視線を向けると、信号待ちするトラックの運転手がその音楽を口ずさむのを目撃。はっとエフエムがこのまちに根付いていることを実感した瞬間でした。(三浦)

▼住むところは違っても、それぞれの地域には昔から伝わってきた伝統や文化があります。「自分には関係ない」「今の時代に必要ない」とつい考えてしまいがちですが、なぜ伝統を守るのか、あるいは守るべきことなのか、よく考えてみる必要があることに気づかされました。(佐々木)

▼今年は新型コロナウイルスの影響でインターハイは中止、全国総文祭はウェブ開催になりました。いつもと違う夏に、高校生は残念な気持ちを持ちながらも、代替大会やウェブでの開催企画に感謝し、すでに前を向いていました。高校生から変化を受け入れる柔軟な対応力を学びました。(小野寺)



登米市公式ホームページ

(新型コロナウイルス感染症の影響に伴うイベント中止などの情報は公式ホームページでお知らせしています。) <https://www.city.tome.miyagi.jp/>



登米市メール配信サービス

(防犯や防災、イベント・市政に関する情報をメールでお届けします。) <https://mail.cous.jp/tomecity/>